

【第3部】

伝

2014年→

いま、そして未来へ

現況と未来展望

1

山口大学の いま、これから

1

山口大学憲章 The Charter of Yamaguchi University (2007年2月15日制定)

はじめに

山口大学は、1815（文化12）年、長州藩藩士・上田鳳陽によって創設された私塾・山口講堂を前身とし、明治・大正期の学制を経て、1949（昭和24）年には、平和と繁栄を願い、地域における高等教育および学問研究の中核たる新制大学として創設されました。そして2004（平成16）年、国立大学法人山口大学が設置する国立大学となりました。

いま、新たな大学づくりに踏み出すにあたり、ここに「山口大学憲章」を掲げ、学生・教員・職員の三者が一体となって、理念の共有と目標の実現をめざします。

I 基本理念

1 「発見し・はぐくみ・かたちにする 知の広場」の創造

私たち山口大学は、21世紀の多様な課題を「発見し・はぐくみ・かたちにする」、豊かな「知の広場」を創り出します。

私たち山口大学は、この「知の広場」において、自らの役割と実績とを不断に評価しつつ英知の創造をめざします。

2 共同・共育・共有精神の涵養

私たち山口大学は、共に力を合わせ、共に育み合い、共に喜びを分かち合います。この共同・共育・共有の精神を“山大スピリット”として涵養します。

3 公正・平等・友愛の尊重

私たち山口大学は、“山大スピリット”による他者への配慮と自らを律する倫理観のもとに、あらゆる偏見と差別を排し、公正と平等と友愛の精神を尊重します。

Ⅱ 教育の目標

1 専門性と社会性の育成

私たち山口大学は、地域の基幹総合大学として、各学部・研究科の特性を活かし、個性あふれる専門性と社会性に富んだ人材を育みます。

2 自己啓発・自己研鑽・自己管理の徹底

私たち山口大学は、自己啓発・自己研鑽に努め、自己管理能力を身につけた人材を育みます。

3 知識社会に応える能力の醸成

私たち山口大学は、地域社会および国際社会の発展と平和の実現に貢献するために、21世紀の知識社会における課題探求と問題解決の能力を持った人材を育みます。

Ⅲ 研究の目標

1 先進的な研究を社会に還元

私たち山口大学は、基礎的・学術的研究および社会が直面する課題の克服と解決に役立つ研究を重視し、総合大学の特性を活かし、先進的かつ長期的な視野に立った研究を進め、その成果を社会に還元します。

2 学際的な研究体制の構築

私たち山口大学は、人文科学、社会科学、自然科学、生命科学などの学問分野の独自性を尊重しながら、これら諸分野の連携を通して、21世紀の時代にふさわしい学際的な研究体制を構築します。

3 研究活動の透明性と説明責任の遵守

私たち山口大学は、研究者相互の交流を基盤に、山口大学を主体とする共同研究体制を構築します。その研究過程と研究成果は広く社会に発信し、説明責任を果たします。

Ⅳ 私たちの責務

1 新たな価値の創出

私たち山口大学は、人間と人間、人間と自然、人間と科学とが調和する新たな価値の創出をめざします。

2 社会が抱える問題解決への寄与

私たち山口大学は、20世紀の時代が繁栄と豊かさをもたらす一方で、自然環境の破壊や貧困・飢餓・戦争など、多くの社会問題が表出した時代であったことを認識し、21世紀の今日にあっては、これらの矛盾の解決のために英知と勇気を役立てます。

3 地域社会の発展と国際社会への貢献

私たち山口大学は、心豊かな教養人と優れた専門的知識・技術を持った人材を育み、地域社会の発展と国際社会の平和に貢献し、人類の幸福に寄与します。



2

現在の山口大学

吉田キャンパス

吉田キャンパスは、山口市郊外に位置し、法人本部、人文学部、教育学部、経済学部、理学部、農学部、共同獣医学部、大学院人文科学研究科、大学院教育学研究科、大学院経済学研究科、大学院理工学研究科、大学院農学研究科、大学院東アジア研究科、連合獣医学研究科（構成大学 山口大学・鳥取大学・鹿児島大学）、時間学研究所及び関連施設等を有するほか、共通教育を行うための施設を有している。

キャンパスの周囲は、農地と住宅地が混在しているが、宅地開発の進行とともに、量販店や郊外型大型書店などの進出が盛んである。また、人口の増加に伴い中学校、高校が新設され、広域な文教地区となっている。

キャンパス内には、さまざまなパブリックスペースが整備され、学生、教職員、地域住民の交流と憩いの場となっているほか、生涯学習の場としても活用されている。



大賀蓮の池



ビオトープ



大学会館前芝生広場



共育の丘



菖蒲池



遺跡保存公園



敷地南側部分



ポケットパーク



河川公園

小串キャンパス

小串キャンパスは、宇部市の中心市街地に位置し、医学部、大学院医学系研究科及び医学部附属病院と関連施設等を有している。

医学部附属病院は、県内唯一の高度救命救急センターであり、ドクターヘリが常駐する基地病院として県内における救急医療の中心的役割を担っている。

キャンパスの周囲には、宇部市文化会館、宇部市渡辺翁記念会館、新川ふれあいセンター、宇部市立図書館があり、宇部市の文化ゾーンを形成している。

キャンパス内には、敷地に余裕がないため、まとまったパブリックスペースを確保することは困難であるが、外来診療棟前のポケットパークを構内のパブリックスペースとして位置づけ、患者、学生、教職員、地域住民の交流・憩いの場としている。また、敷地と隣接した真締川両岸には宇部市が整備した河川公園がある。



体育館前バーゴラ



講義棟中庭



本館中庭

常盤キャンパス

常盤キャンパスは、宇部市郊外の高台に位置し、工学部、大学院理工学研究科、大学院技術経営研究科及び関連施設等を有している。

キャンパスの周囲には、宇部工業高等専門学校が隣接するほか、宇部地域テクノポリス、宇部臨空頭脳パーク等の産業団地があり、産学公の「学」の中心的な役割を果たしている。

キャンパス内には、教育研究ゾーンの廻りにさまざまなパブリックスペースが整備され、学生、教職員、地域住民の交流と憩いの場となっている。



附属山口小学校



附属山口中学校



附属幼稚園



附属特別支援学校



附属光小学校



附属光中学校

教育学部附属学校園

教育学部附属学校園は、山口市にある白石1丁目地区(附属山口中学校)、白石3丁目地区(附属山口小学校、附属幼稚園)、吉田地区(附属特別支援学校)、及び光市にある光地区(附属光小学校、附属光中学校)からなる。

各々が、地域における幼児・初等・中等教育・特別支援教育に資するほか、山口大学教育学部における教育研究活動等の実践の場となっている。



東京事務所建物外観



CICにおける大学説明会会場

東京事務所

首都圏におけるさまざまな活動の拠点として、平成24(2012)年にCIC(キャンパス・イノベーションセンター東京)に開設された。教育・研究・社会貢献に関する情報の発信・収集、同窓会・中央省庁・企業等との連絡調整、産学公連携に係る連絡調整などにあたっているほか、本学学生による就職活動の拠点として活用されている。



山東大学(中国)



マレーシア工科大学(マレーシア)



ウダヤナ大学(インドネシア)



大葉大学(台湾)

海外オフィス

学術交流協定校との連携協力により、北京師範大学(China)、首都師範大学(China)、山東大学(China)、ウダヤナ大学(Indonesia)、ガジャマダ大学(Indonesia)、大葉大学(Taiwan)、マレーシア工科大学(Malaysia)に海外オフィスを設置し、共同研究拠点、共同授業提供、留学情報の提供を行っている。

國際交流

山口大学の本格的な国際交流は、昭和58(1983)年6月に締結した「山口大学と山東大学との学術交流協定」から始まった。平成に入ると、世界各地の大学との大学間・部局間協定が相次ぎ、学術交流協定に基づく交換留学など学生の交流も活発化した。

法人化以降、大学の国際化を一層推進するため平成20(2008)年に「国際戦略本部」を設置した。海外の交流協定校との連携協力によって海外オフィスを開設し、留学生募集や共同研究拠点、共同授業提供などの事業を展開している。

現在(平成26年5月1日)では、世界各地の96機関と交流を行っている。



山東大学との学術交流30周年記念式典

大学等間・部局等間学術交流協定校一覧





書道に挑戦



山口大学留学生ニュースレター

山口大学に留学(交換留学を含む)経験のある学生に、大学の情報を発信するとともに、留学生同士のネットワークを形成することを目的に、平成19(2007)年3月に第1号を創刊し、以降毎年1回発行している。



サマープログラムに参加した海外の学生たち

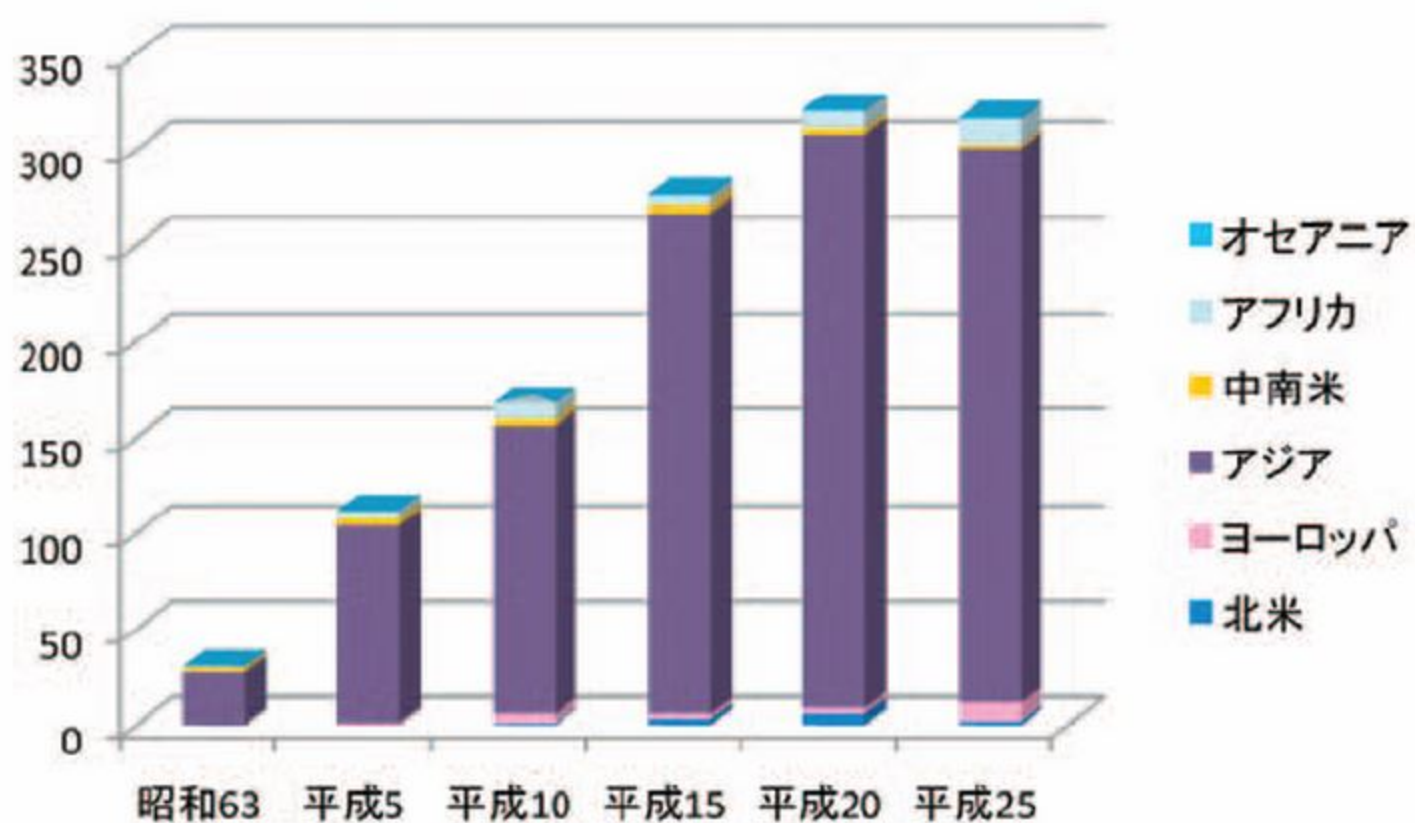
夏休みに留学生センターが開催する短期留学プログラム。本学では、日本語や日本文化の理解を深めてもらうことを目的としている。最終日には浴衣を着て、『山口七夕ちょうちん祭』を楽しむのが恒例となっている。

外国人留学生

昭和56年に山東大学との間で学生の交換留学が始まった。昭和58年、政府の「留学生10万人計画」を受けて、留学生受入は加速し、本学の留学生数も増加の一途を辿った。現在では、約30ヵ国から300名を超える留学生が学んでいるが、新たに政府が策定した「留学生30万人計画」に沿って、更なる留学生受入を図る予定である。

外国人留学生数の推移

全体の約9割がアジアからの留学生となっている。そのうち、過去最も受け入れ数が多いのは中国出身者。平成22年にインドネシアの2大学に国際連携オフィスを設置したことにより、インドネシアからの留学生も増加した。



国際交流会館

外国人留学生や研究者の受け入れ増加に伴い、受け入れ態勢の整備・充実も図られた。昭和63年、吉田キャンパスに山口国際交流会館が、平成9年に常盤キャンパスに宇部国際交流会館が開設された。また、平成20年には吉田キャンパスに国際交流会館2号館が完成し、本学の留学生用宿舎は、吉田キャンパス71部屋と常盤キャンパス47部屋を合わせ、118部屋となっている。



国際交流会館1号館(吉田キャンパス)



山口大学の1年

【春】

キャンパスの各所で桜の花が咲き始めると、新入生を迎える季節。4月の入学式の後、吉田キャンパスにはフレッシュな笑顔があふれる。オリエンテーションを経て前期授業が開始。クラブやサークル等の紹介を目的とした「新入生歓迎フェスティバル」も開催され、先輩たちのエネルギーを肌で感じながら、新入生は大学生活の第一歩を踏み出す。



入学式



山口大学創立30周年記念植樹の桜



新入生歓迎フェスティバル



部活動体験会

【夏】

7月には吉田キャンパスで寮生を中心とした七夕祭が開催される。神輿行列やステージ企画、模擬店など多様な企画で会場は盛り上がり、市民の方の参加も増えて回を重ねるごとに盛大になった。平成26(2014)年で42回を数える。七夕祭が終わると、学生は前期末試験を経て、8～9月の夏休みを迎える。

8月の夏季休業中に、高校生を対象としたオープンキャンパスを各キャンパスで開催。各学部学科の概要説明を始め、研究室訪問、模擬授業、実習や体験、入試相談、学生生活相談など盛りだくさんの企画で、大学の魅力をアピールする。



七夕祭



オープンキャンパス

【秋】

文化の秋、スポーツの秋はイベントが目白押しである。11月には各キャンパスで大学祭「姫山祭」「医学祭」「常盤祭」が開催される。学生実行委員会を中心に趣向を凝らしたステージや模擬店、ゲームなどが行われ、近年では学生が楽しむだけでなく、地域の方との交流の機会にもなっている。また、体育会主催による伝統の学長杯駅伝大会が開催され、各参加チームは沿道の声援を受けながら全力でゴールを目指す。

地域の方を招いて学生ガイドが大学構内を案内する「キャンパスてくてくツアー」が平成24(2012)年10月から始まった。現在では、四季折々にツアーが開催され、大学内に足を踏み入れることの少ない学外の方々に大学を公開する絶好の機会となっている。

附属農場では山口県で開発された酒米「西都の雫」が実り、収穫が行われる。翌春には山口大学ブランド日本酒「長州学舎」として販売される。



医学祭



常盤祭



姫山祭



学長杯駅伝大会



キャンパスてくてくツアー

【冬】

冬になると、キャンパスはスーツ姿の学生が目立つようになる。就職活動、卒論(修論・博論)発表、年度末試験など大学全体が試練の時を迎える。受験生もまた大学入試センター試験や個別学力試験という試練を経て、合格発表を心待ちにする。

3月には学位記授与式、大学院修了式及び卒業式が行われ、卒業生たちはそれぞれの進路へと旅立って行く。



学内業界・企業研究会



雪遊び



合格発表



吉田キャンパス

3

創基200周年に向けて

— 躍動する山口大学 —

創基200周年記念事業

創基200周年を迎えるにあたり、山口大学では先人達の「志」をこれからの200年に向かって繋ぎ、そして更に発展するために、平成22(2010)年10月に創基200周年記念事業会を設置し、さまざまな記念事業を計画した。主な記念事業は以下のとおりである。

- 1 山口大学基金の創設
- 2 記念誌の編纂
- 3 記念碑の設置
- 4 記念式典及び記念イベント等の開催

記念事業の支柱である山口大学基金は、世界に貢献する人材を育成し、社会に送り出すこと、並びに社会貢献活動の推進のための安定した教育研究経費の基盤づくりを目的とするものであり、平成26(2014)年4月に創設した。

人材育成の支援として、日本人学生海外派遣および外国人学生の受入れの支援、就職活動の支援、課外活動の支援、経済的な支援などを行うことにしている。

また、記念事業の実施に向け、平成24(2012)年4月から、創基200周年記念募金を開始した。より一層の募金の推進に向け山口大学と関わりのある企業・団体・個人からなる「山口大学創基200周年記念募金推進会」の協力を得ている。

創基200周年記念シンボルマーク、キャッチフレーズ

創基200周年記念事業は、山口大学の200年の歴史を受け継ぎ、伝えるために記念事業のPRをイメージしたシンボルマークとキャッチフレーズの制作から始まった。制作にあたり山口大学の学生、教職員及び卒業生に広く呼びかけ、シンボルマーク部門41作品、キャッチフレーズ部門133作品の応募の中から各部門3作品を選び、最優秀賞を創基200周年記念のシンボルマーク及びキャッチフレーズに決定した。（平成22（2010）年12月に表彰式開催）

「志」つなぎ 伝える 二百年



—— 創基200周年 ——
山口大学

シンボルマークについて

三角形は山口大学の「山」の字形をイメージし、200年の歴史と伝統を持ってそびえ立つ大学の姿を表している。また、曲線は山口大学の3本柱を意味しており、両端が鋭く知的な青色の線は「教育」を、上に向かって伸びる黄色の線は「研究」を、左右を繋ぐ緑色の線は「社会連携」をそれぞれ表している。創基200周年を越えていくに当たり、山口大学が描いている将来像の意味が込められている。

キャッチフレーズについて

山口講堂から山口大学の歴史がスタートし、その「志」は200年を迎えようとする現在まで受け継がれている。この「志」を、これからもつなぎ、伝えていきたいという想いが込められている。



表彰式の様子(3点とも)

主な記念行事など

基幹シンポジウムの開催

創基200周年を広く学内外へ周知し、2015年の創基200周年を共に迎えるために
基幹シンポジウムを開催

第1回 「創基200周年 これからの山口大学を語ろう」

平成24(2012)年6月1日(金) 吉田キャンパスほか

基調講演 「山大事始」上田鳳陽から学都山口へ ～いま、なぜ200周年なのか～
瀬瀬厚(山口大学理事)

パネルディスカッション 200周年とこれからの山口大学

パネリスト 各学部長 病院長

第2回 「山口大学の未来について語ろう!!」

平成24(2012)年12月5日(水) 吉田キャンパスほか

学生から見たこれからの山口大学を語る

第3回 「山口大学創基200周年を広く地域に発信し、ともに盛り上げていく」

平成25(2013)年11月30日(土) 常盤キャンパス

特別講演 場所の力 隈研吾氏(建築家)

第4回 「地域と共に生きる山口大学」

平成26(2014)年10月4日(土) 吉田キャンパス

特別講演 学祖・上田鳳陽と外郎 福田百合子氏(中原中也記念館名誉館長)

パネルディスカッション 地域とのつながり これからの山口大学は

パネリスト 福田百合子氏 村岡嗣政氏(山口県知事) 岡正朗(山口大学長)



第1回 基幹シンポジウム



第3回 基幹シンポジウム



第4回 シンポジウム

フォトコンテスト『写真で残そう! 山大なう』

200周年を迎える山大的“今”をみなさんに伝えよう!これからの100年に向けて残したい山大的“今”
を残していこう!

第1回 募集期間 平成23(2011)年10月～平成24(2012)年3月 応募点数 157点

第2回 募集期間 平成24(2012)年8月～平成25(2013)年3月 応募点数 108点

第3回 募集期間 平成26(2014)年1月～5月 応募点数 101点

「山口大学創基の地」記念碑の設置

山口大学の淵源にあたる「山口講堂」の跡(山口市中河原)に記念碑を設置。

除幕式 平成26(2014)年3月25日(火)

山口大学創基200周年記念式典

平成27(2015)年5月30日(土) 山口グランドホテル(予定)

刊行物

『山口大学の来た道1～5』平成22(2010)年～平成26(2014)年発行

創基200周年記念OB紹介冊子『輝跡』平成25(2013)年11月発行

『創基200周年記念誌』平成26(2014)年12月発行

その他、平成24年3月から、講演会や各種イベントに「創基200周年記念事業」の名称を付し(冠
事業)開催



第2回 フォトコンテスト授賞式



「山口講堂跡」記念碑除幕式

ホームカミングデー

創基200周年を迎えるにあたり、卒業生、在学生、教職員及び地域の方など山口大学にゆかりのある方々との絆を深めるため、卒業生及び地域の方々をキャンパスに歓待するホームカミングデーの開催が平成25(2013)年から始まり、翌年の第2回からは、山口大学同窓会との共催事業として実施している。

第1回 平成25(2013)年11月23日(土) 吉田キャンパス

・記念講演「ビジネス界から見た真のグローバル化」妹尾信夫氏

「“どぼじょ”の挑戦」阿部玲子氏

・キャンパスツアー、ステージ発表、各学部紹介、抽選会、懇親会など

・参加人数 約400名



パネル展示



キャンパスツアー



懇親会

第2回 平成26(2014)年10月4日(土) 吉田キャンパス

テーマ「地域と共に生きる 山口大学」

・特別企画 湯田温泉スリッパ卓球大会 in 山大

・学生によるキャンパスガイド、ステージ企画、写真展示、各学部紹介、抽選会、懇親会など

・参加人数 約1,400名



スリッパ卓球大会



第3回フォトコンテスト



メンネルコール



キャンパスガイド



懇親会の記念撮影



「長州五傑」記念碑

4

これからの山口大学

「明日の山口大学ビジョン」、「山口大学改革プラン」、 そして「明日の山口大学ビジョン2014」へ

山口大学創基200周年記念事業は、ロゴマークとキャッチフレーズの制作から始まりました。これらの制作にあたっては、山口大学の200年の歴史と信頼を現代に受け継ぐ、学生の皆さん、教職員、そして卒業生を対象に広く公募し、選考のうえ、決定しました。

シンボルの三角形のロゴマークは、山口大学の「山」の字形をイメージし、200年の歴史と伝統を持ってそびえ立つ大学の姿を表現しています。また、「志」つなぎ 伝える 二百年のキャッチフレーズは、これまでの200年の歴史と時代を、山口大学を支えて頂いた地域社会の皆様とともに振り返り、その「志」と「誇り」をつなぎ、これからの200年をともに歩き、新しい歴史を形作り、そして伝えていくという決意を示しています。

山口大学では、自主的・自律的に大学改革を推進することにより、豊かで持続可能な地域社会の実現に貢献することを目的として、平成20年に「明日の山口大学ビジョン」を策定し、平成26年には、その改革の取組みを加速するため「山口大学改革プラン」を公表しました。

そして、創基200周年に当たる2015年を迎える今日、「明日の山口大学ビジョン2014」を宣言し、その記念すべき第一歩を関係者の皆様とともに踏み出し、山口大学と地域との新しい200年の歴史の起点にしたいと思います。



吉田キャンパス

「明日の山口大学ビジョン」の概要

本学は、国立大学法人化を契機に「山口大学憲章」の起草に着手し、平成19(2007)年2月にこれを制定しました。「山口大学憲章」は、本学の20世紀の活動を踏まえ、21世紀における責務を掲げたものです。

国立大学は法人化に伴い、教育・研究の質の向上と社会への説明責任を果たすことが強く求められるようになりました。そのため、6年毎に中期目標・中期計画を策定し、その達成状況について、第三者機関による評価を受け、結果を公表することが定められています。こうした時代の要請から、各大学は自主性・自律性を備えた運営体制を築き、それぞれの大学の特徴を活かしたオンリーワンの大学として発展しようとしています。

そこで、本学では、「山口大学憲章」の基本理念に基づき、学内外の関係者の意見を踏まえつつ、中期目標期間を見据えながら平成20(2008)年に「明日の山口大学ビジョン」を策定しました。

このビジョンの中では、“創基200周年を超え2020年にキラリと光る大学”としての本学の目指すべき方向について、『教育』『研究』及び『社会連携』のそれぞれの視点から中長期的な展望に立って大学の将来像を提示しています。



常盤キャンパス

「明日の山口大学ビジョン」における取組

平成 20 (2008) 年の「明日の山口大学ビジョン」の策定から 6 年が経過した平成 26 (2014) 年現在、ビジョンに掲げた内容に関わる主な取組みは、以下のとおりです。

- ・新しい共通教育カリキュラムの実施 (知的財産教育必修化、キャリア教育充実など)
- ・鹿児島大学との共同獣医学部設置による獣医学教育の充実、国際水準の獣医学教育実施に向けた獣医系 4 大学連携
- ・「若手研究者支援制度」創設や「テニュアトラック制度」の導入による研究者養成
- ・リサーチ・アドミニストレーター (URA) 制度の導入による研究支援体制の強化
- ・時間学研究所が中心となった「日本時間学会」の設立
- ・『山口大学国際化推進宣言』、海外大学サテライトオフィス設置、重点連携国・大学選定
- ・先端医療に対応した医療環境を整備するための病院再整備計画の策定
- ・ドクターヘリの運航による地域救急医療体制の強化
- ・学長選考方法、学部長選考方法の見直しによる大学のガバナンス改革の推進

これら 6 年間の取組みを通して、いま、山口大学は創基 200 周年を迎えようとしています。



小串キャンパス(再開発整備事業イメージ)

「山口大学改革プラン」の概要

平成24(2012)年6月4日、国家戦略会議において、文部科学大臣から「社会の期待に応える教育改革の推進」が示され、平成24(2012)年6月5日、「大学改革実行プラン」が公表されました。我が国の急激な少子高齢化の進行、地域社会の衰退、グローバル化の進展に伴うアジアの新興国の台頭など、厳しい社会情勢のなか、全国の国立大学は改革を実行することが強く求められています。特に地方の国立大学は「地域社会を変革するエンジン」となることに、大きな期待が寄せられています。

平成25(2013)年11月の「国立大学改革プラン」では、山口大学の研究水準、教育成果、産学連携等に関する客観的な根拠資料に基づき、各学部・研究科の社会的役割を再確認する、所謂「ミッションの再定義」を行いました。平成26(2014)年4月、「ミッションの再定義」で明らかとした強みや特色を活かし、大学改革加速期間(平成26年度から平成27年度)に教育研究組織再編及びガバナンス改革等を推進するため、4つの改革の基本戦略からなる「山口大学改革プラン」を策定し、そのなかで、「国際総合科学部」の創設を掲げました。

4つの改革の基本戦略

- ① ミッションの再定義を踏まえた強み・特色を活かした教育研究の機能強化
- ② 新学部を核とした全学的なグローバル化の推進と大学独自の学生評価の実施
- ③ 学部・研究科の壁をなくした柔軟な教育研究組織の構築
- ④ 外部有識者を活用した大学運営ガバナンスの実質的強化



吉田キャンパス

国際総合科学部・国際総合科学科の創設 (入学定員100名、収容定員400名)

山口大学では、創基200周年を迎える平成27(2015)年4月に、9番目の学部となる「国際総合科学部」を創設します。国際総合科学部は、人文社会科学系及び自然科学系の知識並びに実践的能力を兼ね備えた新しいタイプの人材を養成します。学部の基本設計をディシプリン(専門分野)からアウトカム(養成する人材)に転換し、文理融合型教育を行うとともに、デザイン思考による「課題解決能力」と日本語のみならず英語を駆使した「コミュニケーション能力」を身につけた人材育成を目的としています。

そのため、「短期語学研修」及び「1年間の海外留学」を実施します。「短期語学研修」では、海外留学前の英語の知識・運用力を高めると同時に、異文化に対する感受性及び社会的意識を養い、「1年間の海外留学」では、高度な英語力を修得し、国際感覚及び異文化理解力等を養い、実践的なグローバル化対応能力を涵養します。また、海外留学から帰国後の高年次学生が履修する科目については、大部分を英語で開講します。

4年時には、それまでに修得した知識及び経験を活かした「プロジェクト型課題解決研究」を行い、実社会に存在する課題を解決していきます。1プロジェクト・チームに対して1企業あるいは1地方自治体等が参画し、より実践的な課題解決手法を修得します。

国際総合科学部は、山口県に基盤を置く製造業を中心とする企業のみならず、全国的にも海外事業展開する企業等から要請のある人材を養成していきます。



吉田キャンパス

「明日の山口大学ビジョン2014」の概要 —地域と共に、時代と共に生きる大学—

国立大学法人化後10年を経過し、平成27(2015)年は、第2期中期目標期間の最終年度に当たります。同時に、創基200周年を迎えることから、「明日の山口大学ビジョン」を総括し、「山口大学改革プラン」を盛り込んだ「明日の山口大学ビジョン2014」を策定しました。

「明日の山口大学ビジョン2014」は、10年後の2025年の山口大学の姿を、グローバル化を具現した“Diversity University”と規定し、本学が目指すべき方向について示したものです。ここでは、外国人留学生を含む全ての大学人と、地域や産業社会の人々とが、互いの歴史・文化・民族・言語・宗教の違いを超えて、共感・共鳴・協奏できるキャンパスが描かれています。

「教育」では、学生と教職員が一体となり、“共育”する大学をつくっていきます。「課題探究力」や「チャレンジ精神」等の「人間力」を備え、「国際理解力」と「高い専門能力」を持つ人材育成を行い、社会の高い評価を受けるとともに、在学生や卒業生及び留学生の「誇り」と「信頼」を受ける大学を目指します。

「研究」では、専門分野での学問の深化と、分野間の連携・協力で行う協奏的な研究により、人間、社会、自然などの総合的理解を進める研究、21世紀の課題解決を目指す研究、新たな社会価値を創成する研究を推進し、研究の国際化と地域発イノベーション創出を目指します。

「社会連携」では、地域の基幹総合大学として、また、アジア・太平洋圏において独自の特徴を持つ大学に深化することにより、教育・研究の成果を広く社会に提供するとともに、地域社会や国際社会との連携をかたちにして、地域創生の核となることを目指します。